

あ・うん

金剛禅総本山少林寺広報誌

vol.
40

2015 皐月・水無月

A photograph of a traditional Japanese wooden bridge with a curved railing, spanning a pond. Several large koi fish are visible in the water in the foreground. The bridge is made of dark wood and has a series of vertical posts supporting the railing. The water is dark and reflects the surrounding greenery and the bridge structure. In the background, there are lush green trees and a small building, possibly a temple structure.

2015年度事業方針
道院の楽しい便りが
聞こえる年に

道院の楽しい便りが聞こえる年に

金剛禅総本山少林寺

金剛禅中長期計画を策定してから三年が経過する。この間、社会情勢を見極めながら財政状況を考慮し、年度ごとに実施事業計画の見直しをしてきた。広く社会では、世界的金融経済危機に伴う地域経済の悪化や社会システムのひずみなど、新たな課題が顕在化する中で、特に地球環境問題や少子高齢化は本格的な対策を必要とされ、差し迫った様相を呈している。また、地域づくりのあり方も、従来の発想や考え方を大きく見直していくことが求められている。そのような中で、金剛禅教団では、現代社会に生きる運動体として、地方の状況に応じた道院活動を展開することが急がれている。

そのためには、人口の多少や地域性を考慮した布教、普及のあり方をもって臨まなければならない。全国道院が地域と密着したコミュニティとしての環境を整え、そこに集う老若男女が自己の可能性を信じ、ダーマ信仰を確立し、自己の幸せは

もとより、他者の幸せが己の幸せにつながるという人の輪を広げること、全国から道院を中心とした楽しい便りが聞こえてくるような年度を目指す。事業方針は次のとおり。

- ・社会に向けてより積極的な布教の拡充を図る。
- ・県教区活動・小教区活動の充実・活性化を図る。
- ・次期指導者の育成強化を図る。
- ・東日本大震災の復興支援を、引き続き実施する。
- ・本山組織機構の充実を図る。
- ・コンプライアンスに基づく運営の点検、充実を図る。

重点実施項目および事業概要

- (1) 都道府県教区および小教区活動の活性化
- ・本山⇄総代⇄都道府県教区長⇄小教区長の連携を強化し、困難は援け合い、よいことは学び合い、喜びは分かち合える教区活動を目指す。
 - ・道院環境の整備と道院活動の充実

を目的に、本山教師・教区講師などによる道院長を対象とした教区活動を展開する。

- ・金剛禅布教師としての資質と能力を高めることを目的に、本山教師・教区講師などによる門信徒を対象とした教区活動を展開する。

(2) 道院活動の充実

- ・組織機構改革の趣意に沿って、形態に応じて正常な道院運営が行えているかの点検を行う。
- ・専有道場を生かした道院の特長を生かし、布教強化を行う（「布教月間」の推進）。

(3) 道院長心得、次世代指導者の育成

- ・道院長研修会、道院長資格認定研修会および認証式フォローアップ研修の内容充実を図る。

- ・講習会（次世代指導者育成、道院幹部、特別、少年部指導、級拳士）について、金剛禅の独自性が生きる企画を立て、教えと技法と教育システムの融合を図り、指導者育成につなげる。

- ・布教と教化育成の活性化に向けて、僧階制度および教本の充実を図り、僧籍編入者および僧階昇任者を増やす。

(4) 組織運営機構の活動の充実

- ・各本山委員会が使命と役割に沿って、より一層活動の充実を図る。

(5) 門信徒・賛助者増加への取り組み

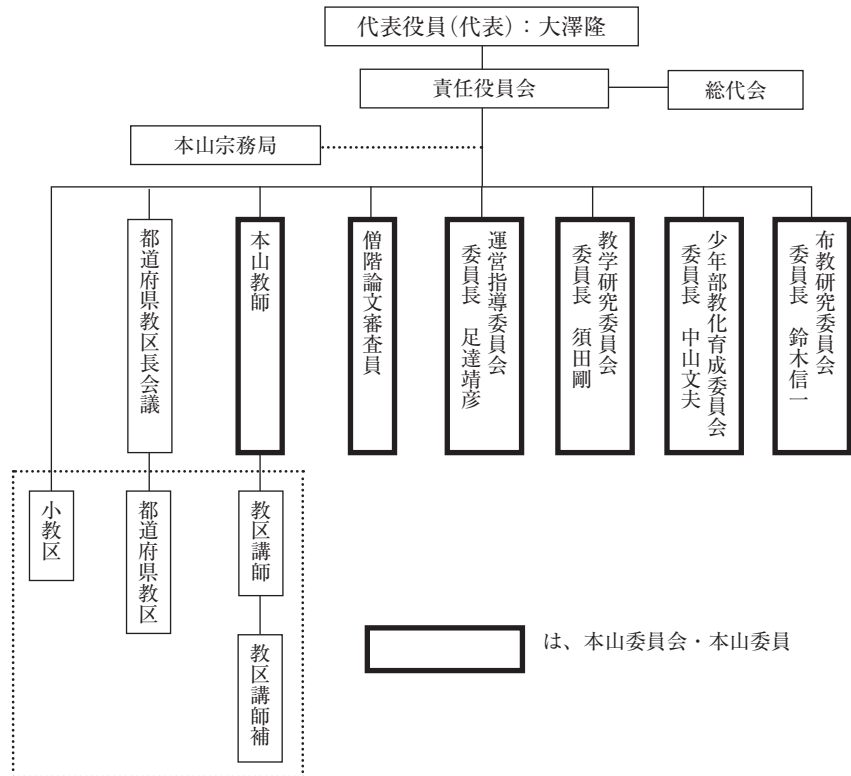
- ・新規入門者の増加や休眠門信徒の復帰に向けて取り組む。
- ・広報誌『あ・うん』や公式ウェブサイトなどを充実させ、広報活動の充実を図る。

- ・「賛助会員制度」を創設し、本山・道院の賛助者への布教活動を行う。

(6) 法令順守に基づく運営の点検と充実

- ・門信徒が安心して修行できるための環境整備に向け、現状の規則や運用方法について点検、改善を図る。
- ・門信徒の安全管理と人権を含む精神的保護のために、体罰や各種ハラスメントの根絶に向けた指導および啓発活動を行う。

● 2015・2016年度運営機構図 ●



2012年度策定の中長期計画に基づき、基本計画の5本の柱に則って、それぞれの柱の更なる充実を図るため、本教団の独自性を反映した運営機構(本山委員会および本山委員など)のあり方、またこれらの使命・役割などの見直しを行い、2015・2016年度は、次の新

しい運営機構で教団の運営を進めていく。

◆本山委員会

布教研究委員会

【使命】金剛禪を広く布教するための検討事項を研究、審議する。

【役割】

・金剛禪の独自性を持った布教方法

の研究。

・金剛禪の将来像につなげていくための布教のあり方を研究。

・教材や資料などの製作に参画する。

少年部教化育成委員会

【使命】少年部の教化育成に関する検討事項を研究、審議する。

【役割】

・子供に対する宗教教育のあり方を検討する。

・右記を踏まえて、道院での少年部に対する宗教(金剛禪)教育のあり方を検討する。

・少年部指導講習会などの企画、指導に参画する。

・教材や資料などの製作に参画する。

教学研究委員会

【使命】金剛禪の教学、修行法に関する検討事項を研究、審議する。

【役割】

・各種修行法のつながりを研究し、道院活動の充実を図る。

・教学と修行法の体系的なあり方の研究。

・整法の位置づけと活用の研究。

・講習会、研修会などの企画、指導に参画する。

・教材や資料などの製作に参画する。

運営指導委員会

【使命】道院運営や門信徒の問題、そ

の他組織における諸問題への対応を行う。

【役割】

・道院運営や門信徒の問題対応を行う他、問題の再発防止、未然防止などに努める。

・その他、代表より指示を受けた問題や課題に対する対応、調査などを行う。

◆本山委員【役割】

僧階論文審査員

・僧階論文を審査する。

本山教師

・本山講習会における講師を務める。
・本山公認講習会における本山派遣講師を務める。

・本山認定の教区研修会、小教区研修会の講師を務める。

◆教区講師、教区講師補【役割】

教区講師(少法師以上の道院長)

・本山公認講習会における地元講師を務める。

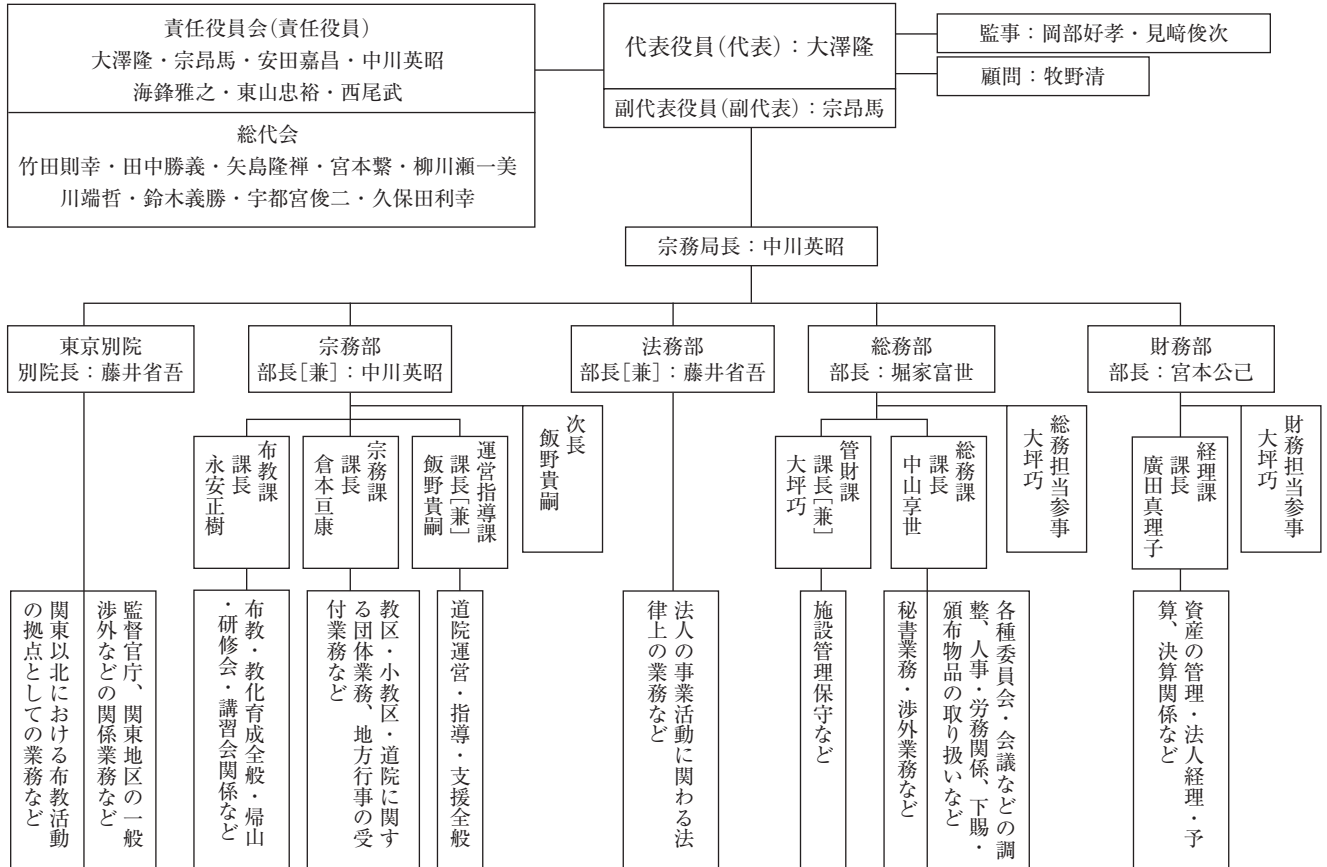
・本山認定の教区研修会、小教区研修会の講師を務める。

教区講師補(権少法師以下で、教区から推薦された道院長)

・本山公認講習会における地元講師を務める。

・本山認定の教区研修会、小教区研修会の講師を務める。

● 2015年度組織図 ●



代表就任挨拶



おおさわ たかし
大澤 隆

この度、2015年1月度責任役員会におきまして、宗由貴師家より選任され、4月1日より代表役員として就任いたしました。

開祖の志を原点とし、宗由貴師家の下、金剛禪教団の発展にご尽力された浦田武尚前代表役員の長年にわたる功績を後世に引き継ぐためにも、ダーマの分霊として自己の可能性を信じ、不撓不屈、不惜身命の覚悟を持ってこの大任に当たることを誓う次第でございます。

少子高齢化社会が進む中で健康増進、精神修養、護身練胆が必要とされる現代こそ、金剛禪教団として社会の中へ更に踏み込む必要性を感じております。そのためには、教えと技法を通じての人づくり、理想境建設を本山と道院が一体となつて積極的に展開することこそ重要であり、道院長の先生方とともに和合し一興する行動力こそ求められるところであると思います。

金剛禪教団、少林寺拳法グループの発展のため尽力してゆく所存でございますが、まだまだ未熟な身心でございますので、今後ともご指導ご支援をよろしくお願い申し上げます。

副代表就任挨拶



そう こうま
宗昂馬

この度、2014年12月度責任役員会におきまして副代表役員として選任され、2015年4月1日をもちまして就任いたしました。

この責任ある大役をお引き受けいたしましたうえは、金剛禪教団と少林寺拳法グループの更なる発展に、誠心誠意を持って全力を尽くして臨む所存でございます。

先般の組織機構改革によって全国の道院長、門信徒の皆様には大変なご苦労とご協力を頂きました。その皆様のご努力とお気持ちにしっかりと応えるべく、母である宗由貴師家、大澤隆代表役員を支え、今後も金剛禪運動を正しく布教し、全国の門信徒の皆様が生き生きと自信を持って活動できる環境づくりの創出に働かせていただきます。

まだまだ若年で未熟な所も多々ございますが、開祖の遺されたこの金剛禪の教えと志をしっかりと世代を越えて受け継いでいくことを私の使命として、金剛禪の教化育成に生かしていく所存でありますので、今後とも何とぞ皆様のご理解とご指導、ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。



開祖語録 ダイジェスト

1979年9月30日
新設道院長・支部長
の認証式

どこそこの道院長が先生について会いに来る。しかし年賀状もよこさんような道院長がポカッと訪ねてきたってねえ、わし、いい顔するはずがない。3年も出入りせなんだり、何かおかしいことしてるやつが、困ったときにかぎって来よるわけね。おらん言えって言うたら「いや、聞いたら、先生、おられるはずです」って。わしはこういうばかだから、表まで出ていって、「本人がおらん言うのにおらんの分かつとるんじゃ、帰れっ!」。居留^{どな}守じやないんだ。わしは出ていって怒鳴^{どな}るんだ。おれがおらん言うんだから、間違いないから帰れっちゅうて(笑)。もう一つ私が言いたいことは、信

一人でも多くの指導者をつくりたい

用ではだめなのです。いいですか。悪いことをしないで得た信用というもの、これは当たり前のことです。悪いことをするやつが多いから、あの人は信用できる人、まあ、悪いことをしない人という程度に受け取ればよろしい。そうではなく、信頼できる人というようにならないとだめですよ。信じ、頼られる。こういうことは口先だけではだめで、行いの中で積み重ねるよりない。そんなことは分かっている、今更と思うかもしれないけど、分かっている

ということとできるということは違う。これをもういつぱん考えてくれ。新しく指導者になった人たち、本にひとつ本気でやってほしい。日本をよくするために、大臣とか町長一人変えたってだめなんだよ。多くの人を変えたい。とにかくなあ、偉い人を一人弟子にしたってだめなんだよ。一人でも多く、しかも、責任を持てるような人を一人でも多く。そのためには少なくとも数十万の指導者がいる。分かってくれるか?

● 2014年度行事報告 ●

2014 年

4月	帰山
5月	道院長研修会1次、2次、3次 開祖忌
6月	道院長研修会(北海道・東北)、 (九州・沖縄) 認証式 級拳士講習会(東京)
7月	次世代指導者育成講習会 僧階補任講習(大導師・中導師) 道院長資格認定研修会
8月	帰山
9月	道院幹部講習会 僧階補任講習(少法師) 帰山
10月	特別講習会(台風の影響により初日のみ開催) 達磨祭(台風の影響により中止、後日、達磨祭法要を職員のみで実施) 道院長資格認定研修会 認証式
11月	少年部指導講習会 僧階補任講習(大導師・中導師) 帰山
12月	

2015年

1月	新春法会 道院長資格認定研修会
2月	級拳士講習会(東京) 認証式
3月	帰山

■次世代指導者育成講習会

7月に開催、52人が受講した。テーマは「日々に活かそう、金剛禅」道院の修練を実生活へ。日頃、道院で学んでいることが、家庭や職場、地域などの実生活でこそ活かせるものであることを心と身体で理解できるよう、講義や易筋行などの各プログラムにつながりを持たせて展開した。

■道院幹部講習会

9月に開催、90人が受講した。テーマは「金剛禅の目指す人づくり」可能性を引き出そう。金剛禅らしい有機的な組織のあり方と、チームの一員として自身がどう行動していくかを講習するため、班を一つのチームとして、各チームのビジョンを打ち立て、それを基に団体演武を創り上げることを題材とした。

落語のルーツは仏教のお説教

「エー、小噺を一つ」といった「まくら」から始まったりする落語という話芸のルーツも、仏教にあるといわれています。落語家が寄席で落語を演ずる席を「高座」といいます

が、聖徳太子が「高座」でお話をされたという記述が残っています。もちろん、聖徳太子が高座で落語を演じられたわけではありません。聖徳太子は修行僧などに対して仏教の講義をされたのです。もともと、寺院で説法や講義などをする僧が座る一段高く設けた席のことを「高座」といい、聖徳太子はその高座に座られてお経の解説をされたのです。

その後、仏教が一般民衆に広まっていく中で、聞き手側が、難しい話は分からないとか、専門的すぎると聞いてもらえないということ、日常生活に関わる話題や比喩や因縁話を使って仏法を説く形態が生まれます。とにかく聞いてもらわなければ、お話にならないというわけです。

そういう中で、安楽庵策伝というお坊さんが「醒睡笑」という小話集をつくりました。笑いで睡魔を醒ませるというわけです。この安楽庵策伝というお坊さんが、「落語の祖」と

いわれています。落語のルーツは仏教のお説教にあったのです。

そのほかにも盆踊りや、能、狂言など仏教から派生したものは枚挙にいとまがありません。日本においては、仏教があまりにも文化や習俗などの日常生活に深く入り込み、長い年月の中で変容を遂げ、もとの仏教の教えがどういったものだったのか、かえって分かりにくくなってしまっているのです。

僧尼を見れば、葬式か読経を連想してしまうほど、仏教を代表していると見られる僧尼が単なる葬儀の執行人であり、読経と法要以外には用のない人間であると思われています。釈尊は、死者について何かを教えたり、死者に呼びかけるようなことなどなく、初期の仏教教団では葬祭の儀式などは一切行わず、専ら生きている人間の教化に専念していたのに、なぜか日本では葬式仏教といわれるまでになってしまったのです。

開祖は敗戦時の満州での体験から「人、人、人、すべては人の質にある」と気付かれました。しかし同時に「その質は変えられる」とも知っておられました。縁起の理法の「全ての

ものは変化し続ける」。なぜならば、全ての物には潜勢力という、そのままどまっっていない、満足な状態に変化しようとする力が内在しているからです。万物の霊長たる人間も同じくその潜勢力を持っていて、開祖はそれを「無限の可能性」と言い表わされました。

そして、迷信や呪術、祈祷などを否定し、葬儀を生業とするような仏教を批判した開祖は、釈尊の正しい教えを根本に置き、人間の無限の可能性を信じ、自己をよりよく変えるための人づくりの行としての少林寺拳法を主行とする金剛禅という新しい宗門を創始されたのです。

幾千年の時代を越え、釈尊、達磨大師、開祖・宗道臣と貫かれた教えと技法は、私たちは今を生きる門信徒に託されています。私たちは開祖の志を継承すべく、釈尊の正しい教えを現代に生かし、行動原理とした生き方をしなければなりません。



道



信じて歩むこの道

岡山灘崎道院 道院長 山崎隆尉

私が少林寺拳法への「道」を歩み始めたのは高校2年生のときで、少林寺拳法本部の近くにある香川県立多度津工業高校少林寺拳法部へ入部し、本部第131期生として入門させていただいたときからです。入門の理由は、ただ、強くなりたい！でした。練習は、学校のクラブでありながら、多度津郵便局の横にあった旧本部の道場で行われ、指導は本部の先生であり、開祖・宗道臣先生も練習に出てくれました。開祖は、技の指導や、ひと汗かいたところで、「まあ、座れ」と言われ、経験豊富な話を聴かせてくれました。これは、学校の授業では聴くことのできない貴重な話であったと思います。

我々3年生が卒業する際に、開祖は、歓送会を開催してくれ、その際、私に、「お前は何処へ行くんか」と尋ねられ、三井造船ですと答えると、「おお！ あそこには義若がおるから頼って行け」と言われました。故・義若道恵先生（本部3期生）は、三井造船少林寺拳法部（岡山県玉野市）の支部長であり、後に私の師匠となる方です。私は、三井造船へ赴任するとともに、義若先生に挨拶に伺い入部させていただきました。これ以来、15年間、

三井造船少林寺拳法部での修行となりました。この間に、本部で月1回行われる武道専門学校へ通いました。宇野駅から高松駅へ連絡船で約1時間、高松駅から多度津駅へ約1時間、片道2時間の道のりです。武専の授業の中では、開祖法話があり、これを聴くのが楽しみであり、同時に随分と勇気づけられ、ヤル気のもととなりました。

岡山灘崎道院を設立したのは、1976（昭和51）年11月のことで、時の町長さんからの依頼によるものでした。以来、多くの拳士を世に送り出し、拳士の逞しく成長していく姿に指導者冥利を感じました。

私には幸せなことに孫が9人おり、そのうち6人が少林寺拳法の拳士です。設立35周年記念祝賀会の際、孫たちからサプライズで私に感謝状の授与がありました。さすがに、笑いと涙で私の顔はくしゃくしゃになりました。内容は次のとおりです。「感謝状、山崎隆尉殿、あなたは、35年もの長きにわたり岡山灘崎道院の道院長として雨の日も風の日も二日酔いの日も活動し続けた功績はすばらしく誇りに思います。私たちの祖父としては常に優しく時に厳しく孫9人に無償の愛を注い

でくれ温かい目と大きなお腹でいつも私たちを見守り支えてくれました。ありがとうございます。ここに感謝の意を表します。これからもお酒はほどほどに健康で長生きしてください。平成24年10月21日 山崎家孫一同」

今年で入門以来55年目となります。これほど長く続けられるとは思っていませんでした。多くの先輩・諸先生方からの指導を受けながら、また、多くの友人を知りうることでできました。このことは、私の生涯において貴重な財産となるものであり宝物です。友人・家族に支えられていることに感謝の気持ちでいっぱいであり、特に妻には、健康への気遣いや辛口のコメントをもらいながら、優しい気持ちに心から感謝しております。

組織機構改革は、昨年3月末で終了しました。私は岡山県教区長を拝命していることから、県下道院長の皆さんにはいろいろとご無理をお願いをし、その結果として廃院せざるをえない道院長もおられ痛恨の極みでした。しかし現在では、宗教的な行事も全て実施でき道院らしい活動ができることに大変よかったですと思っています。今後は、信じて励んだこの「道」を体力の限りに続け、頑張ります。

ダイジェスト

×



志をつなぐ

あきよし よし み 秋吉 好美 157期生
大導師大範士八段

生きてるうちは死にやせん
失敗を恐れず、前を向いていこう

入門の動機は、自分さえ強くなれば良いという不純なものでした。「少林寺拳法」という語呂のよさにも惹かれ、門を叩いたのが京都別院。法輪寺庫裏を訪れたときに出会ったのが開祖でした。紹介者がいなければ入門できないところ、開祖が紹介者になってくださり、今考えても不思議とスムーズに入門できました。その自分さえから、だんだんと理

想的な道院をつくろうと変わっていききました。気付いたら変わっていたという……まさに人を育てるシステムが少林寺拳法にはあると実感しています。これからも、「生きていくうちは死にやせん」という開祖の言葉を大切に、失敗を恐れず、前を向いて歩み続けたいと思います。

※プロフィールや開祖の思い出など、金剛禅オフィシャルサイトの全文もぜひご覧ください。

◀1965年、渋谷道院時代



▼1963年、新宿体育館
で山崎博通少法師大範
士八段との演武

ダイジェスト

×



道院長

vol.25

元気の素

ふくおかおおの じょう 福岡大野 城 道院
まつた かずこ 道院長 松田 和子 (36歳)

みんなとつくる道院という家、
笑顔の連鎖で明るく毎日！

——道院での指導方針・方法の工夫を教えてください。

私自身が努力し、変わっていく姿を見せることが、私にできることだと思っています。足りないところは、私より人生経験の長い年上の拳士の方や、子育て経験のある拳士・保護者の方々がサポートしてくださっています。それぞれの持つものを持ち寄ることで、道院の可能性は

広がり、指導層も厚くなります。福岡大野城道院という家づくりを、みんなで模索しながら築いているところです。

道院長である私が常に笑顔でポジティブであることは門下生の笑顔につながります。笑顔の連鎖を日々、心掛けています。

※プロフィールなど、金剛禅オフィシャルサイトの全文もぜひご覧ください。



本山公認教区講習会

山口県教区

2月11日、山口市スポーツ文化センター武道館にて金剛禪総本山少林寺公認第3回山口県教区講習会が開催されました。

本山派遣講師に久保田利幸総代をお招きし、地元講師に鈴木義勝先生、長田正紀先生という指導陣、50人の受講者でした。参加者全員の自己紹介に始まり、法階講義、僧階講義と、熱心な先生方の下、受講者も感激していた様子です。午後からの技術研修では、年齢別に3グループに分け、相対をローテーションで交代しながら、日頃触れ合う機会のない同志と交流を深めました。終始、熱心ながらも笑顔の絶えない講習会になりました。

福岡県教区

2月22日、福岡県教区講習会を太宰府市にて開催し、拳士100人弱が講義を受講した。本山派遣講師として鈴木義勝総代が見えられたほか、地元講師に久保田利幸総代・福岡那珂川道院道院長、佐藤健二本山運営指導委員会委員長・福岡西道院道院長に務めていただき、また本山より永安正樹職員も指導補助



に來られるなど、厚い講師陣で開催することができた。

午前中は、教範学習および僧階履修科目を学び、熱心に傾聴する受講拳士の姿勢がよい空間を生み出していた。昼休みを挟み、午前中に生まれたよい空間をそのまま午後からの易筋行（えつきんぎょう）に引き継ぐことができた。金剛禪運動を実行するにも、やはり拳技を欠くことはできず、また何より餌（導入部分）である拳技に磨きをかけることは、受講拳士が元来好きなことであるから、真剣なまなざしや行動が随所に見られた。この雰囲気の中で、講師陣の指導も自然と熱を帯びたのは当然であった。あつという間に時が流れ、当講習会

小教区合同研修会

を盛会に終えることができた。今回は、8月初旬に第3回を計画しており、福岡県下における金剛禪運動の活性化につなげて行きたい。（野田守）

三重三泗、三重中勢、三重南勢

1月18日、鈴鹿市武道館にて、小教区合同（三重三泗、三重中勢、三重南勢）研修会として、少導師対象に僧階補任のためのレポート研修会（テーマC1金剛禪における儀式的意義と目的）を講師・四日市僧伽道院道院長の春日部裕樹少法師が行いました。もともと三重三泗小教区単独で行う予定でしたが、少導師の拳士が上位の僧階を補任



していく中で、今回の参加予定が2人となったため、それなら小教区合同で行い、更に三重地区武道専門コース（以下、三重武専）後に行うことで参加人数を増やそうと計画しました。

権中導師の拳士および参加した拳士の所属長も積極的に出席していただき、13人の参加となりました。三重三泗小教区での小教区（僧階補任のためのレポート）研修会について、今回で2014年度実施は4回目であり、2015年度は少導師だけでなく権中導師を対象の研修会も実施する計画をしています。今回は4月（少導師対象）、5月（権中導師）の三重武専終了後に行う予定です。

白山加賀野道院 保育園フェスティバル参上！

「おーっ」「わーっ」と、我が白山加賀野道院の小学生拳士の組演武で逆小手が極まったその瞬間、保育園児たちと保護者の歓声が沸き起こりました。

2014（平成26）年11月2日、白山加賀野道院が毎週練習をさせていただいている松任福祉会「恵愛学童クラブ」のフェス

ティバルに参加し、保育園児の前で演武を披露しました。当日は、北陸特有の曇り空でしたが、雨に降られることなく施設内のグラウンドで行い、保育園児はもとより、その保護者、保育園の先生方は、初めて見る演武に真剣な表情で見入っていました。演武は、飯村道院長より少林寺拳法の紹介・解説を行い、皆大会さながらの気合いを込めて演じられました。

フェスティバルでの園児たちはとにかく元気いっぱい駆け回り、いろいろなイベント会場を巡っていました。2000人ほどの園児、保護者の来場がありました。私たちは演武の他に「金魚すくい」のゲームと「フライドポテト」販売の売店をしました。

拳士一同、この場所での日々の修行を通じて、より園児や先生方とのつながりを深め、園児たちが正義感と勇気と慈悲心の強い人間に育っていく一助として、少林寺拳法の教えと金剛禪運動を今後とも広めていくことを心に誓いました。

この度のフェスティバル参加のお声かけをくださった保育園理事長ならびに園長先生に心より感謝いたします。（徳永徹朗）

2015年2月度 認証

●新設

名古屋港道院 衆原 誠司
伏見丹波橋道院 安嶋 正悟
高知安芸道院 宇都宮 広史
旭川南道院 田村 文雄
相模林間道院 平井 一也
琵琶湖大橋道院 大倉 教史
上宇部道院 藤井 郁英
今治大西道院 藤本 道則
東京西品川道院 海沼 実

●道院長交代

埼玉鴻巣道院 草野 智広
千駄ヶ谷道院 千葉 利貴
金沢泉道院 釜田 隆文
山梨峡南道院 名取 俊人
京都北野道院 市来 聖史
大阪千代田道院 上野 勉
播州志方道院 松野 剛
甲賀甲南道院 若林 寿一
福岡粕屋東道院 中野 桂樹
今治道院 柳下 智宏

僧階昇任者

権大導師

■2014年12月1日付

鈴木 伸一(藤枝道院)
前川 明範(滋賀守山道院)

中導師

■2014年11月1日付

根本 栄夫(平道院)
山下 誠(愛知けやき道院)
飯盛 康一郎(佐賀多久道院)

■2015年1月1日付

伊藤 宏一(埼玉飯能道院)
西村 忠則(四日市富田道院)

権中導師

■2014年12月1日付

熊澤 俊彦(伊達道院)
加藤 明男(酒田中部道院)
伊藤 慎也(酒田中部道院)
田川 研作(中野西道院)
花井 竹男(横浜寿道院)

阿部 徹彦(川崎西道院)
桜井 睦夫(焼津道院)
田村 卓夫(名古屋瀬古道院)
古村 裕美(日進南道院)
牧村 万紀子(名古屋植田道院)
白坂 晃一(三重箕曲道院)
松岡 直人(四日市僧伽道院)
妹尾 年晃(四日市僧伽道院)
坂井 博行(四日市桜道院)
木田 要(神戸兵庫道院)
加藤 明(神戸鷹取道院)
坂田 誠(神戸鷹取道院)
濱田 公正(宇和島道院)
渡邊 巖(宇和島道院)
川口 敦史(伊予八幡浜道院)
水本 大幸(伊予八幡浜道院)
濱本 友貴(伊予八幡浜道院)
田中 彰俊(松山武南道院)
田中 博美(松山武南道院)

お布施

▷大屋恵子 故大屋昭夫 世田谷道院道院長夫人 200,000円
▷東京大塚道院(新春法会) 100,000円
▷埼玉鶴瀬道院(埼玉鶴瀬道院設立40周年記念) 50,000円
▷東京大塚道院 矢野 順一 50,000円
▷聖島道院 道院長 佐伯敬三(聖島道院道場建立45周年記念) 30,000円
▷東京都教区(東京別院新春法会) 10,000円

▷大阪千代田道院 道院長 上野 勉(設立50周年記念) 20,000円
▷尾張瀬戸道院 道院長 佐々木 繁士(新春法会) 10,000円
▷豊田末野原道院 道院長 服部 俊美 10,000円
▷東京大塚道院 松並 芳孝(東京別院新春法会) 10,000円
▷愛知石畳道院 道院長 中川 勝也(特昇時の帰山) 10,000円

九段特別昇格者

2015年1月11日付

村上 一(中曽根道院)



西内 一(千歳スポーツ少年団)



法階昇格者

大範士

■2015年1月11日付

細川 正義(泉州白蓮スポーツ少年団)

正範士

■2014年12月14日付

中川 勝也(愛知石畳道院)

准範士

■2014年12月7日付

高橋 康子(江別大東道院)

■2014年12月14日付

関口 伸行(栃木城南道院)

■2015年3月15日付

原 正江(群馬多々良道院)

安田 博文(横浜慈眼寺道院)

金森 智徳(京都峰山道院)

本山行事

5月

9日(土)~10日(日)

道院長研修会1次

10日(日) 開祖忌

16日(土)~17日(日)

道院長研修会2次

30日(土)~31日(日)

道院長研修会3次

6月

6日(土)~7日(日)

道院長研修会4次

13日(土)~14日(日)

道院長研修会5次

21日(日) 認証式

5月は宗道臣デー月間

訃報

おおいえ まさみ
大家 正己

石川大聖寺道院道院長、546期生、中導師大拳士五段
2015年2月22日逝去、満66歳

きのの につた
木野 日太

小倉日豊道院道院長、407期生、中導師准範士六段
2015年3月11日逝去、満64歳

2016年度本山職員を募集しています。

http://www.shorinjikempo.or.jp/religious/congregation_news/employment

ぜひ、
オフィシャルウェブサイトの
詳細をご覧ください。

※誌面の都合により、新春法会御祝は次号に掲載いたします。

編集後記▶木々が芽吹き、人間の身体^{からだ}の奥底からもエネルギーを感じる季節。修行によって身体に眠る潜在的な能力を引き出すには適した時期です。開祖は、人間のみが持つ知性や理性、良心といった働きを「可能性の種子」に例え、それを開花結実させる方法が金剛禅門信徒の修行法であると言われました。「内修と外修」で示されるその修行法は、日常生活全てが修行の場であると読み取れます。自己のあり方について「道院で気づき、日常に生かす」。これからも行住坐臥の修行に励んでまいりましょう。(ふ)

表紙▶河合 修 愛知県出身。日本を代表する写真家・藤井秀樹氏のアシスタントを経て独立。2009年5月より「ダーマ」をテーマに、『あ・うん』の表紙撮影に取り組む。中拳士三段。

金剛禅総本山少林寺オフィシャルサイト▶

<http://www.shorinjikempo.or.jp/religious/>
2週ごとに更新される代表メッセージをはじめ、「宗門の行としての少林寺拳法」を動画でご覧いただけるほか、誌面に掲載しきれなかった記事・写真も掲載されています。

金剛禅総本山少林寺 検索

あ・うん vol. 40
金剛禅総本山少林寺広報誌 2015 皐月・水無月

2015年5月1日発行(奇数月1日発行)

発行人: 大澤 隆

発行所: 金剛禅総本山少林寺

〒764-8511

香川県仲多度郡多度津町本通3-1-48

☎0877-33-1010

<http://www.shorinjikempo.or.jp>

編集人: 藤井省吾

企画・編集: 金剛禅総本山少林寺東京別院

〒170-0004

東京都豊島区北大塚2-17-5

☎03-5961-1400

e-mail aun@shorinjikempo.or.jp

印刷・製本: (株)ブル・ドック

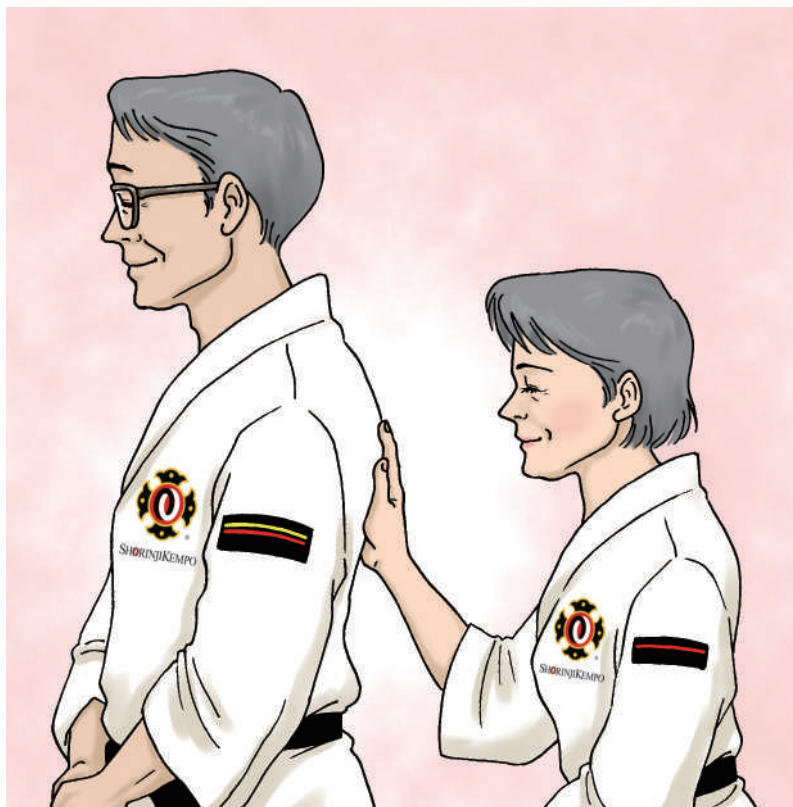
広報誌『あ・うん』追加発送について ◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇

現在、広報誌『あ・うん』を1道院につき、門信徒10人以上の場合12部ずつ、9人以下の場合10部ずつ、一般財団支部は1部ずつ、毎号ご提供させていただいております。更に追加をご希望の方は本山宗務部にお申し出ください。(追加1部につき50円・送料別途要)

TEL.0877-33-1010

e-mail: fukyoka@shorinjikempo.or.jp

いち ご いち え
一期一笑



イラスト/大原由軌子

宇和島道院 濱田 宏行

内助の功

妻が四国地方保護司連盟会長功労表彰を頂いた。結婚して46年、道院を設立して43年目を迎える。道院設立当初、道院長の行き過ぎた指導により門下生がゼロになったことがあった。それでも本山より道院長講習会の資料は届く。妻が指輪を質に入れて講習会に行かせてくれた。

その後、門下生が増えてきて、14坪の自前道場が狭くなった。思い悩んでいたらひと言、「何とかなるのと違う?」と言われ一大決心をする。1989(平成元)年、鉄骨二階建て65坪の道場が完成。

海外の大会や指導に行くときも、何も文句も言わず、お金を工面してくれる。

自宅がもらい火で全焼するという人生最大の苦難に遭ったときも二人で乗り切った。金剛禅の教えを実践するため、家を空けることが多いが、「気を付けて」と笑顔で送り出してくれる。

いつもそばにいて応援してくれる妻が功労賞を頂いた。本当に嬉しい。

投稿大募集 道場や拳士のちょっとした話を募集しています。※ペンネーム可ですが、必ず、名前、所属、連絡先もご記入ください。なお、原稿内容の整理・編集をさせていただきます場合があります。原稿の選択はご一任ください。〒170-0004 東京都豊島区北大塚2-17-5 東京別院 広報誌担当宛
TEL.03-5961-1400 FAX.03-5961-1401 e-mail: aun@shorinjikempo.or.jp

Rakan Ken, Johaku dori



宗門の行としての少林寺拳法

ら かんけん じょうはくどり
羅漢拳 上膊捕

我の上膊を握られた際、空いている片方の手を相手の握り手の甲に重ね合わせて掛^{かけ}手する。握られた腕は上膊抜の要領で相手の腕に絡めつつ、内肘で我の掛手ごと相手の手首を挟み込み、引き落とすように捕る。腕だけで捕ると上体が崩れがちになるので、肘の落としと併せて後ろ足を若干引くように捕るとよい。相手の手首を生かしたまま、「コ」の字になるように極めるため、肘の使い方が肝要である。

撮影／近森千展 文／永安正樹 演武者／守者：飯野貴嗣 准範士六段 攻者：富田雅志 大拳士五段



SHORINJIKEMPO
少林寺拳法